



日本共産党

北地区政策委員長

のの山けん 区政レポート

http://www3.kitanet.ne.jp/~nonoyama/ E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

No.9 2006.11.21

発行 のの山けん 区政
〒115-0042 志茂 4-6-15

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

教育基本法改悪

衆議院で

自民・公明が強行採決

いじめ自殺、やらせ質問、高校必修もれ…問題山積みなのに
審議うち切り、許せません



質問をカネで買った？

法案提出の資格問われる 文部科学省

衆議院のこれまでの審議で、高校の必修もれについて文部科学省が事前に知っていたことや教育改革タウンミーティングで8回中5回も「やらせ質問」があったことなど、法案提出者としての資格が問われる問題が次々わかってきています。

タウンミーティングの実施仕様書には「協力者に謝礼 5,000 円」という項目も。

自民、公明両党は16日、教育基本法改悪法案を衆議院本会議で強行採決しました。共産党や民主党など野党4党は審議の継続を要求しましたが、与党が国民の声をきく公聴会を開く前に数の力で採決日程を決めるなど、国会のルールを破ったため、審議に応じませんでした。

日本共産党は、法案提出者の資格にかかわる問題として、3つの大きな問題——「やらせ」問題、未履修の問題、さらに、いじめ自殺という痛ましい問題について、文部科学省の関与と責任をきちんと明らかにしたうえで、徹底審議が必要だと強く求めてきました。しかし、政府・与党はこれらの大問題のすべてにはおかむりのまま、ルール破りまでして採決を強行したのです。

衆院にさしもどし徹底審議を

審議はまったくつくされていません。この採決は絶対に認めるわけにはいきません。中味も問題の改悪案は廃案にすべき。「教育基本法を守れ」の声をあげましょう。

教育基本法の改悪

「いじめ」克服にも逆行

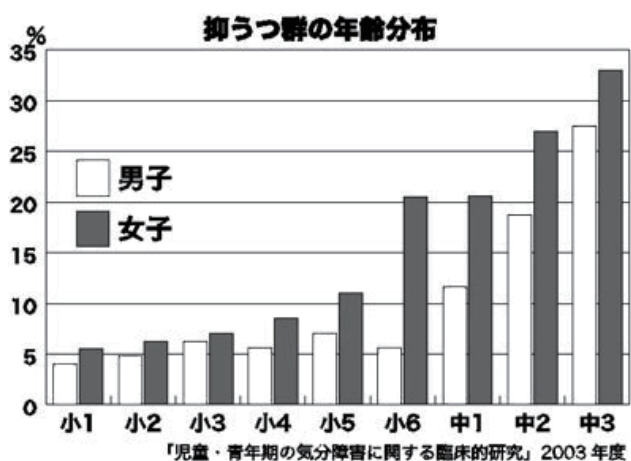
小中学校をテストの点数でランク分け、予算配分も

いま政府がやろうとしている「教育改革」は、全国いっせい学力テストをおこない、その結果を公表して全国の小中学校に点数でランキングをつけようというのです。さらに予算配分も差別しようとしています。学校選択制も全国にひろげるといいます。

こんなことをやったらどうなるか。都内ですでに先取りしている区では点数で学校が序列化され、いわゆる「良い学校」には子どもが集まり、「悪い学校」とされたら子どもがなくなる、入学者ゼロという学校すらあらわれました。義務教育の段階から、競争とふるい分けが強められ、教師も子どもも、点数や数値目標に追い立てられる——こんなことになるのです。



↑ 予算まで点数で差別しようとした足立区を報道する「朝日」と「毎日」。区民から批判が集中しました。



↑大学の教授グループが調べた子どもの「抑うつ傾向」。3,000人を超える子どもの回答から。

競争とふるい分け強化では「いじめ」を生みだす温床を広げるだけです

いま、子どもたちは、絶えず競争に追い立てられ、「できる子・できない子」にふるい分けられる、競争主義と序列主義の教育の中にいてひどいストレスを感じている、そしてそのはけ口を「いじめ」に求めてしまう——こうした構造が、いじめの温床になっていることは専門家も指摘しています。

教育基本法を生かしてこそ解決の道がひらけます

競争とふるい分けでは本当の学力は育ちません。「わかる」喜びを伝え、探究心を育て、互いに助け合って学ぶ人間関係をつくる中でこそ本当の学力が身につかれ、「いじめ」の克服の道も開かれるのではないのでしょうか。

その指針となるのがいまの教育基本法です。いま必要なのは、政府がやろうとしているような「愛国心」の押しつけではなく、学校と教育をめぐる胸の痛む現実を、いまの教育基本法を生かして解決していくことです。